

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 25 年 1 月 17 日 (2013.1.17)

【公開番号】特開 2012-119252 (P2012-119252A)

【公開日】平成 24 年 6 月 21 日 (2012.6.21)

【年通号数】公開・登録公報 2012-024

【出願番号】特願 2010-270149 (P2010-270149)

【国際特許分類】

F 2 1 S 2/00 (2006.01)

G 0 2 F 1/13357 (2006.01)

F 2 1 Y 101/02 (2006.01)

【F I】

F 2 1 S 2/00 4 3 9

F 2 1 S 2/00 4 3 2

G 0 2 F 1/13357

F 2 1 Y 101:02

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 11 月 22 日 (2012.11.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

図 10 において、50 は導光板で、30 が LED 基板である。導光板 50 は横長の矩形状をしており、アクリル等の透明な材質を用い、LED 32 を挿入、配置する上方が繋がった逆凹状の矩形の孔 51 を導光板 50 の下方及び中央部に横方向に一列に並べて構成している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 7】

次に反射シート 40 について説明する。図 7 は反射シート 40 を示す。反射シート 40 は、縦方向を 3 等分し、各々 3 等分した下部に孔 42 を設置する。孔 42 は矩形で、LED 基板に搭載されている LED 32 を挿通させるものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

従って、反射シート 40 の矩形孔 42 は、複数の LED を一定間隔で、横方向の寸法約 50 cm において、約 20 個程度設けている。この孔 42 は、LED 基板の LED に対応している。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 4 9 】

また、反射シート 4 0 には、導光板よりシャーシ 1 0 にねじで固定しているため、貫通孔 4 1 を各列に 3 個有している。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

図 8 は、シャーシ 1 0 を示し、図 8 (a) はその上面図で、図 8 (b) はシャーシ 1 0 の部分断面図である。シャーシ 1 0 の大きさは、液晶表示装置が例えば 4 2 インチであれば概略横 1 0 0 c m × 縦 6 6 c m くらいの大きさである。シャーシ 1 0 は、一般に鉄板をプレス成形で製造している。また、寸法が概略横 1 0 0 c m × 縦 6 6 c m くらいの大きさであれば、成形後反りが発生しやすい。そのため、鉄板の板厚を 1 m m 程度と厚めにし、図 1 に示したように、背面より補強材 1 1 0 を設置し固定している。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 9 】

シャーシ 1 0 の裏側に配置する回路基板は、LED 駆動基板 2 0 0、液晶表示装置全体の電源基板 2 2 0、液晶パネルを駆動する液晶駆動基板 2 1 0、メイン基板である信号処理基板 2 3 0 及び HDD 装置 2 4 0 がある。HDD 装置は必要に応じて外す場合がある。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【図 9】

図 9

